

琉球新報

ryukyushimpo.jp

情報お寄せください 琉球新報お申し込み 購読 | お試し 記事

沖縄の天気 事業案内 広告案内 会社案内

[ホーム](#) [過去記事](#) [写真&動画](#) [特集一覧](#) [社説](#) [コラム](#)

[社会](#) [スポーツ](#) [政治](#) [経済](#) [地域](#) [芸能・文化](#) [教育](#) [エンタメ](#)

沖縄関係者情報募集・安否情報 | 被災地支援
関連情報: 東日本巨大地震(Google) 地震・津波災害に関する

社会

RSS 2.0

神戸の無念胸に被災地へ 八重山病院、看護師の高野さん

2011年3月18日 **BI** 0 

5

【石垣】県立八重山病院の看護師、高野直弥(なおみ)さん(37)が東日本大震災被災地での医療ボランティアのため、同病院を退職し、18日に岩手県釜石市に向けて石垣島から出発する。阪神・淡路大震災で肉親を失った悲しみを胸に「今度は少しでも力になりたい」と決意の旅立ちだ。

大阪府出身。千葉県成田市の看護学校に通っていた20歳のころ阪神・淡路大震災が起き、大阪の実家は一部倒壊、神戸市長田区に住む祖父母はつぶれた家に生き埋めになって亡くなった。

現場でボランティアをしたかったが、看護師の国家試験が目の前に迫り、学校を離れられなかった。「何もできなかった」と無念が今も残る。

11日の大震災以降、今度こそ被災地で活動したいという思いが募るが、県の答えは「先方が受け入れ態勢が整うまで待機」だった。「もう待ってられない」と、自らインターネットでボランティア先を探した。

たどり着いたサイトは、自然災害や戦争難民の緊急救援活動を行う国際医療のNPO法人「AMDA(アムダ)」だった。既に第1陣は大震災翌日の12日に被災地入りし活動していた。

15日にAMDAの本部に電話すると、16日夜「看護師を必要としている。1週間でもいいから来てほしい」と返事が来た。高野さんは17日に県立八重山病院に退職届を提出し、出



祖父母が亡くなった阪神・淡路大震災を思い出し、目を潤ませながら被災地への出発の思いを語る高野直弥さん＝17日、石垣市内

発準備を整えた。同病院の同僚も「応援している」(前大舩直美主任看護師)と快く送り出してくれた。

「向こうには被災者なのに、『つらい』とも言えず、限られた人数で働き続ける医療スタッフがいる。少しでも代わることができたら」と高野さん。被災地の仲間や患者たちを気遣いながら、北に向かう。

次の記事:幅広い年齢層が挑戦 らんなー...>>
、今日の記事一覧、今月の記事一覧、最近の人気記事